

## 2016 年度大阪女学院事業計画策定にあたって

### I. はじめに

2014～15 年度に検討・策定した「VISION OJ 140」、第 I 期中期計画の推進状況の評価及び第 II 期中期計画(2016～19 年度)を前提として、2016 年度事業計画を策定する。

すでに少子化の波をかぶっている中学校・高等学校、2018 年からの 18 歳人口減少期に入る短期大学・大学、それぞれの学校が、社会環境の質的变化及び対象年齢層の減少への対応が求められている。2016 年度事業計画の策定において、キリスト教学校の姿勢を貫き、キリスト教を基盤に展開してきた女子教育、英語教育、人権教育(解放教育)を継承していくことを基本姿勢としながら、変化への対応を明らかにする。

### II. 大阪女学院が推進する事項の確認＝VISION OJ 140 に向かう運営

#### 建学の精神(ミッションステートメント/2009 年 9 月 15 日制定)

大阪女学院は、創造主を畏れキリストの教えに従って一人ひとりを愛し、何が重要であるかを見抜く力を養い、喜びをもって進んで社会に仕える人を育む

#### VISION OJ 140・[大阪女学院が育もうとする学生・生徒像]

- \*キリスト教に基づく愛と奉仕を実践する人
- \*自由な学びの中から、物事の本質を見つめ、自己の進路を選ぶことのできる人
- \*英語力を基礎に幅広い教養と公正な判断力を身に付け、自律的・主体的に行動できる人
- \*性別の役割にとらわれずにあらゆる可能性に挑戦し、女性の尊厳の確立に努め、リーダーシップを発揮する人
- \*社会の課題に関心を持ち、世界、日本、地域のために仕える人

#### VISION OJ 140・[2020～23 年度の大阪女学院の姿]

##### [中学校から大学院まで キリスト教を基盤に全人格を育む女子の学校]

##### 1. 大学・短期大学(大学院を含む)

(1) 地球規模及び地域社会の課題に関わる女性を育む高等教育機関として

取組み: 地球環境、平和、人権、不平等、貧困、女性の潜在的な課題に関わる教育の展開、ビッグシスター制度・リーダーシップトレーニングの充実、OJ ゼミ・ボランティア活動(サービスマネジメント)の深化と充実、女性のマネジメント能力及びリーダーシップの育成プログラムの展開、

(2) 英語運用能力を活かした教養教育による人格を育む学校

取組み: WGL(Women's Global Leadership) 専攻の拡充、英語+他外国語の教育の定着、留学生の増強と支援策の充実、他大学との包括協定の調査・検討

(3) 学校の全体像(2023 年度)

短期大学: 1 学年 100 名 大学: 1 学年 150 名 全学学生数: 800 名+大学院生

(4) 広報のコンセプト

2016 年度(大学)、2018 年度(短大)に実施予定のカリキュラムの目標と成果を解りやすく伝える。

2012 年度から明確化して取り組んでいる大阪女学院の教育理念の下で学んだ卒業生が、社会においてどのような成果を上げているかを効果的に伝える。

上記に引き続いて予定される新カリキュラム及び 2020 年度予定の国の大学入試改革に伴い、改定予定

の3つのポリシー(アドミッション、カリキュラム、ディプロマ)を解りやすく伝える。

## 2. 中学校・高等学校

### (1) 世界を見つめ、生き生きと社会で活動する女性を育む学校として

取組み:世界的に評価の高い国際教育の中等教育プログラム導入による教育展開、多国籍生徒に開かれた学校

国際特別入試の拡充(目標:1 学年 30 名以上)、

海外大学への進学充実(目標:卒業生の 20%)、中期海外留学制度の拡充、

英語能力の目標設定(CEFR による目標:高 3 生の 50%が B2 レベル到達等)

(註)CEFR:Common European Framework of Reference for Languages の略

### (2) 女性の視点での教育活動の展開

取組み:ボランティア活動(サービ斯拉ーニング)の評価と展開、

女子教育に求められる課題と対応の可視化、女性を取り巻く社会の課題への対応

### (3) 学校の全体像(2023 年度)

中学校:1 学年 4 クラス 150 名 高校:1 学年 8 クラス 295~305 名 全校生徒数:1,355 名

### (4) 広報のコンセプト

グローバルな視点で活動する生徒を育む学校、

関西エリアにおけるグローバル教育推進の拠点校として位置づけられている学校

## 3. 部門間の連携・協働

### (1) 中学校から大学院までの教育研究機関であり、キリスト教を基盤に全人格を育む女子の学校であることを地域社会に広く報せる。

取組み:学院全体のキリスト教教育及びボランティア活動(サービ斯拉ーニング)の展開、

キリスト教教育センター及びサービ斯拉ーニングセンターの稼働、

### (2) 大学院の研究成果(国際共生、平和)が中学校・高等学校、短大・大学に活かされて、多様な教育を展開する。

### (3) VISION OJ 140、第Ⅱ期中期計画に則って、部門間の連携・協働がより充実している。

## 4. 教育研究活動を支える学院運営

### (1) 女性が働くための課題への対応と職場環境の充実

取組み:女性を取り巻く環境(労働・家庭・社会環境等)の課題と対応、

リーダーシップ養成の課題と対応

### (2) 学院全体が協働する運営組織とシステムの構築

取組み:学院理念に基づく教職員の養成と研修、学院内共通事項の集約と一元化による業務の円滑化

推進(事務システム、人事労務システム、情報システムとデータ集約、学院規程の整備)、部門

間協働・助け合いの仕組みの導入

### (3) 健全な財務体質への転換

取組み:退職積立金の安定的確保、安定的な人件費計画、将来の施設整備に備える積立金の確保、

各部門の財政バランスの確保、新借入金の設定

### (4) キャンパス施設設備の維持及び新設計画

取組み:学院の運営像に照らした施設設備の維持・改修計画、

学院全体が必要とする新施設の設置計画、大規模災害に対応する施設設備の充実、

### III. 2016 年度の運営課題と取組み

#### 1. 第Ⅱ期中期計画(2016～2019 年度)初年度の各部門の取組み

- (1) 中学校・高等学校の取組み
- (2) 短期大学・大学の取組み
- (3) 法人事務局の取組み

＊上記(1)～(3)の取組みは、2016 年度事業計画に則って、実行する。

#### (4) 第Ⅱ期中期計画の学院全体プロジェクトチームによる取組み

学院全体としての取組みは、「教育内容の充実／学生生徒募集方針」「地域との共存」「組織の人材育成」「財政運営方針と 5 か年計画・施設整備」を掲げ、プロジェクトチーム(編成済)の計画策定(到達目標設定)と実行プランによって、推進する。

＊上記(4)の取組みは、各プロジェクトチーム 2016 年度目標と計画に則って、実行する。

#### 2. 世代交代に向かう取組み

##### (1) 役員体制及び学院運営会議(常勤理事会)体制(2017 年 5 月 28 日より 4 年間に向けて)

- ・2017 年 5 月末の役員任期満了に向けて、理事定年(80 才)に近づく理事の方々の世代交代の検討
- ・理事の任期満了(2017 年 5 月 27 日)及び理事会の編成状況を前提にして、2017 年度からの学院運営会議(常勤理事会)の体制整備及び準備(学内理事及び理事長選任等)

##### (2) 教員体制

- ・中学校・高等学校

世界的に評価の高い国際教育の中等教育プログラムの導入に向けての体制整備、教育内容の変革に伴う教員養成及び管理体制の整備

- ・短期大学・大学

運営管理体制(学長・副学長候補者等)の将来展望の検討

##### (3) 事務組織管理体制

- ・事務職員募集計画及び新人採用計画
- ・事務職員管理職体制の世代交代への助走(60 才代から 50 才代への交代)

##### (4) クリスマンコードに関する課題整理

- ・大阪女学院がクリスマンコードを用いている事由を確認する。
- ・事務職員のクリスマンコードと管理職体制
- ・短大・大学教員のクリスマン数及び比率に関する考え方

#### 3. 教育研究センターの将来構想計画の取組み

大阪女学院が、地域社会、キリスト教会及びキリスト教関連団体と共に活動する学校法人としての働きを明らかにするために、将来構想を明確にする。同時に、これまでの活動内容の計画的な充実を図る。

#### 4. 健全財政の確立(2020 年度に向かう中期計画／第Ⅱ期中期計画に則って)

2016 年度の健全財政運営は、保有資金を増強する方針に基づいて、計画的な取組みを行う。

#### 5. 第Ⅲ期中期計画(2020～2023 年度)及び VISION OJ 150 の策定への諸準備

第Ⅱ期中期計画のうち、2016 年度の計画進捗状況の評価を行い、課題整理と今後の策定方針を検討する。